

【論文】

保育理念を実践に展開する方法の提案

～保育理念を基にしたアセスメントシートを チェックすることによる保育者の変化～

Proposal of how to put the childcare philosophy into practice
-Make an assessment sheet based on the childcare philosophy-

山田真理子¹

要約

どの園にも、保育理念・保育方針というものがあって保育の実践がなされている。しかし、日常の保育において、その理念が意識されていることはあまりないのではなからうか？それは、理念を実践に展開する方法論が開発されてこなかった結果といえよう。

筆者は、理念を実践に展開するための方法として「理念を基にした保育実践アセスメントシート」を作成し、それを毎日の終業時にチェックすることで、自分の保育を振り返るとともに、理念が保育者の心身に落ちてゆくことを試みた。

その結果、保育者は自分の日常のかかわりを理念を基盤にして考えるようになり、子どもへのかかわりを考えるとき「理念にあっているかどうか」を基準にするようになっていった。また、子どもへのかかわりを話し合う中でも「理念」という共通理解が得られ、職員会議がスムーズかつ実り多くなったとの報告を得た。

さらに今後のアセスメントシートの集計を園の会議で活用する方向性を提案したい。

1 子どもと保育研究所 ぶろほ

Abstract

Every kindergarten and/or nursery school has a childcare philosophy and childcare policy, and its childcare is practiced with the philosophy and policy. At the same time, it's doubtful if the philosophy and policy is always on conscious in their daily childcare. It can be said that this is a result that there hasn't been developed a method for putting these concepts into practice.

The author made "Childcare practice assessment sheet based on the philosophy" as a way to put the philosophy into practice. By writing the sheet and checking it at the end of each day, childminders can look back on their childcare practice and understand their philosophy both in their mind and body.

It results that childminders have come to think about their daily involvement based on their philosophy, and think their practice according to the idea if it is on the philosophy as a standard, when discussing the involvement to children. In addition, while discussing the relationship with children, a common understanding of "the childcare philosophy" has been gained, and it makes staff discussion enrich and smooth.

Furthermore, this paper would like to propose a direction to utilize the aggregated data of "Childcare practice assessment sheet" at staff discussions.

キーワード 保育理念 アセスメントシート 共通了解
組織理念の形骸化

1, 背景と経緯

私たちは組織を立ち上げるとき、必ずその組織の理念を基に組織の形やメンバーを考える。しかし、一旦組織が立ち上がるや、その理念はほとんど思い出されることがなくなることも多い。それだけでなく、その組織は理念を実現するために組織されたにもかかわらず、組織を存続させるための方法論が主軸になって、日常の活動が理念からかけ離れてゆくことも少なくない。そして、理念から離れれば離れるほど、その組織は形骸化し、リスクマネジメントにおいて弱体化する。

このことに気づかせてくれたのは、東日本大震災での学校管理下の最大の悲劇となった石巻市立大川小学校の事故を長期にわたって質的分析して上梓した「クライシスマネジメントの本質」※1)であった。この中に、教育委員会や第三者委員会のリスクアセスメントシートが提起されている。そのリスクアセスメントの項目は大川小学校において最悪の事故が生じたからこそ明らかになったものの、多くの組織に内在しているものであり、それに気づくかどうかはその組織の未来を左右すると言ってもよいものと思われた。

それらのリスクアセスメントシートの項目の一部を以下に紹介する。

①教員組織のクライシスマネジメントに関するアセスメントシート (P279)

- ・ 理念が形骸化している
- ・ 率直に思っていることを話し合えない雰囲気がある
- ・ トップやメンバーが理念への貢献より自分の利益に関心があるなど

②教育委員会の事後対応のアセスメントシート (P310)

- ・ 事故や事件を「仕方なかったこと」にしようとしている
- ・ 組織が責任を取らないでいい方向にもっていこうとしている
- ・ 組織で隠蔽といった不正行為に関わった人を罰せずに優遇しているなど

③第三者委員会のリスクアセスメント（P369）

- ・当事者組織の関心が組織防衛にある
 - ・当事者組織が委員の人選をしている
 - ・初めから「問題はなかった」という結論ありきで、不都合な証言は取り上げなかったり・・・
- など

リスクアセスメントにおいては、これらの項目に無記名でチェックを行い、チェックが多いほどリスクが高いと判断される。膨大な資料の分析から、大川小学校の事例はこれらのすべてがチェックされる状態であったと記されているが、どのような組織でも思い当たることがゼロではないであろう。それをリスク要因としてアセスメントする体制を持つかどうかが重要なのである。このチェックによって、リスクを予測し（予測可能性）、適切な事後対応が可能になり（制御可能性）、二次被害の防止につなげる（再現可能性の逆利用）と西條は述べている。※1)

さらに、組織（園や学校）は理念をもって生まれ、その理念を達成することを目標としたものである。そして、その組織はそれを実現するための方法によって運営される。しかし、時としてこの方法（組織を持続すること、保育方法を実践すること）が目的化され、本来の「子どもたちをいかに生きる存在にしたいのか」という理念が置き忘れられることは少なくない。方法が目的化することは、組織の根本にかかわることである。※2)

筆者はこれを、「園の理念が形骸化しているほど、園の実践は理念から離れたものになる」と考え、園の理念を日常的に組織内でチェックできる方法への応用開発を試みた。

2. 園の保育理念の実践への展開

保育園・幼稚園・こども園においてはどの園も文章化された保育理念や保育方針を持っている※3)。どの園においてもその園で実施される保育・教育の基本として十分に考え抜かれた文章になっているにもかかわらず、

それに日常的に接することはほとんどない。そして、理念に基づいてその園の日常の保育は実践されているはずであるが、その実践が理念にあったものであるかどうかを日常的に振り返ることもほとんどないと思われる。

また、保育理念はそれぞれの園独自のものであり、その理念が実践されているかどうかは、他園と比較することはできない。といって、その園で「実践している」といえばそれでいいというものでもないであろう。ここに、「保育理念を実践に展開するための共通した方法」が必要であることの根拠がある。

日々の仕事の中で理念や目標（子ども主体、子どもの健全な育ちなど）を見失い、手段（保育方法や技術、行事）が目的化することは多くみられる。しかし、理念・目標を見失った結果として、本来の目標にたどり着けなくなることもまた増えることになる。※4、5）逆に考えれば、理念や目標を見失わない習慣を身につければ、日々の仕事を理念・目標と結び付けて考える習慣を身につけるということになる。本研究は、そこにアセスメントシートという形を導入したものである。

本研究の取り組みは、理念を日常的にチェックできるアセスメントシートにすることで、保育者が日々の自分の実践をそのアセスメントシートでチェックすることができ、保育者はチェックする作業のために毎日理念に触れることが組まれている。本稿は方法論の提案とその効果の例示であり、保育理念や保育内容がどのような園であっても適用が可能である。

さらにこのプロセスの中で以下のことを明らかにしたい。

- ・アセスメントシートに毎日チェックすることで、理念への理解が深まるか？
- ・理念を日常的に理解することで、保育がどのように変わるだろうか？
- ・チェックシートの項目を話し合い、理念の理解を深めることで、具体的実践に繋がるか？

さらに、今後は理念を日常に活かすために、アセスメントシートを通して実践に展開してゆくこのプロセスで、保育者や園全体がどのように変

わってゆくかを明らかにしたい。

3、研究方法

(1) 研究方法概要

- ①リスクアセスメントシートを参考にした園の理念アセスメントシートを作成する。
- ②評価者（保育者）がより高得点に向かおうとする自身の意図を引き出すために、チェックだけでなく5段階評価とする。アセスメントの各項目は各園の保育理念・保育方針の文言から20文字程度の短文にし、チェックしやすいように工夫した。
- ③そのチェックシートを、職員が退所時に毎日チェックして提出する。
その毎日のチェックにより、保育者それぞれの園の理念との関係がどのように変化するかを、ヒアリングを基に質的に分析する。
- ④これらの方法を、これまで筆者と研修等でつながりのあった保育園・子ども園・幼稚園に提案し、本研究への参加を希望した園に対して、(3)のワークショッププログラムを提示した。

(2) アセスメントシート

理念や方針は各園で異なることから、アセスメントシートの項目も園ごとに異なり、園の理念によっては、短い項目の文にし難いものや理念の言葉の意味を話し合うことに多くの時間を使う園もあるようだ。ここで、アセスメントシートの一例として〇保育園の理念や方針からアセスメントシートに項目化したものを示す。

アセスメントシート例（O保育園）

今日の保育を園の保育理念に照らして振り返るためのチェックシート for O 保育園

このチェックシートは、一人一人が毎日退勤時に今日の保育を振り返ってチェックするためのものです。それによって、園の基本理念に照らして 毎日の自分の保育を振り返り、日々の保育を理念に近づけましょう。毎日退勤前の5分程度、深く考えず、今日の自分の保育を振り返って、⑤～①に直感的にチェックし、改善できることがあれば記入してください。

クラス 名前

		⑤とても そう だった	④かな りそう だった	③少 し そう だった	④あ ま り そう でない	⑤全 く そう で ない	改善点
1	子どもの人権に配慮する						
2	一人ひとりの人格を尊重する						
3	「明るく」「元気に」「のびのびと」を見守る						
4	健やかな成長のために、日々の保育を工夫する						
5	異年齢児や高齢者とふれあい、あたたかな保育環境を整える						
6	遊びを通して心とからだを健康に育てる						
7	当たり前のことを丁寧に育てる						
8	メリハリのある保育を実践する						
9	安心して失敗できる毎日を保障する						
10	感性豊かで、意欲と思いやりのある元気でたくましい子どもを育てる						

保育理念

1. 私たちは、子どもの人権に配慮するとともに、子ども一人ひとりの人格を尊重します。
2. 「明るく」「元気に」「のびのびと」をコンセプトとして、子どもの成長を見守ります。
3. 子どもたちが健やかに成長するために、日々の保育を創意工夫します。
4. 異年齢児や高齢者とのふれあいを通じ、温かい保育環境を整えます。

保育方針

感性豊かで、意欲と思いやりのある元気でたくましい子どもを育てます。

1. 遊びを通して心と体を健康に育てます。
2. 当たり前のことを丁寧に育てます。
3. メリハリのある保育を実践していきます。
4. 安心して失敗できる毎日を保障します。

他の園のアセスメントシート項目例

	チェック項目		チェック項目
1	子どもがいのちの尊さを感じる保育ができた。	1	生きる力の基礎を育てた
2	子どもが生きる喜びを感じる保育ができた。	2	安心して・健やかに過ごすことを保障した
3	ともに生き、ともに育ちあう保育ができた。	3	自信と意欲をもって未来に進む子どもを目指した
4	自分の存在と同時に人の存在をも大切にできる保育を心がけた。	4	思う存分遊ぶ環境を保障した
5	子どもを真ん中という保育ができた。	5	子どもが見通しをもって行動できるよう支えた
6	家庭とつながることを意識した。	6	自らやってみたいと思う自主性・主体性を大切にした
7	ひとりひとりに合わせた工夫・支援ができた。	7	健全な心身の発達を意識して保育した
		8	子どもの最善の利益を考えた保育をした

(3) ワークショッププログラム

- ①アセスメントシートの構造を理解する
- ②園の理念（保育方針）からアセスメントシートの項目を作成する
- ③毎日、アセスメントシートを退勤時にチェックして提出する
（④アセスメントシートにチェックしにくい項目があれば、項目を再検討する）
- ⑤一定期間（1か月）チェックを続け、同じクラスの変化、同一人の変化などをグラフ化して、園内研修を行う。

(4) 研究の具体化

<研究1>

各園の理念を基に作られたアセスメントシートで各自が1か月チェックをし、そのことによる保育者・園の変化をヒアリング調査する。（2021年6月～7月に6園で実施）

<研究2>

園内にアセスメントシート作成班（理念チーム）を作り、アセスメント

シート作りから研究方法1に展開する。(3園で実施)

<研究3>

アセスメントシートをインターネット端末で入力し、それが園長(主任)の所に一括してデータ化され、そのデータおよびグラフ化されたもの(Formを有料提供)を基に園内研修を行うことで、相互理解を深める。(研究1及び2に参加の園のうち希望園)

<研究4>

理念を実践に展開するワークショップを、理念を読み解くことから1年間をかけて研究方法2→1→3と進む。(K園で実施中)

本稿では、以上のうち研究1およびその効果についてのヒアリング結果を分析し報告するとともに、園の理念を実践に繋げる新たな方法論を提起する。

4, 結果

研究1では園の理念についてのアセスメントシートを各園のHPから筆者が作成して提供し、各園で毎日の退所時にチェックして提出して帰宅するという実践を6月から実施していただき、7月末に4園に対してZoomでヒアリングを行った。

ヒアリングは下記の点を質問項目として渡しておいて、自由に話していただいた。

- ① アセスメントシートを書くときに感じたこと、戸惑ったこと。
- ② アセスメントシートをつけることで自分の中で何か変わったか？
- ③ 実施する前と比べて、園の方針や理念についての思いは変わったか？
- ④ 園の方針や理念が身近になると、保育に影響すると思うか？
- ⑤ その他、アセスメントシートをつけて感じたこと。

ヒアリングをレコーディングしたものを文字化して分析した結果、保育者たちの発言から、以下の流れが浮かび上がってきた。

- ①これまでの自分の反省→②気づき→③理念への意識の変化→④理念と

保育がつながる→⑤理念への理解の深まり→⑦理念が身体に落ちてゆき保育が変化する

まず、それらの発言を具体的に示す。(D,H,Y,Bは各園名の頭文字)

① これまで、あまり意識していなかった

向き合っていなかった (D)

自分たちで作ったものの、保育の中では意識していなかった。(H)

最初は結構考え込んでしまって、大変だった (Y・B)

毎日の反省ポイントが一貫した (H)

保育をしているときは目の前のことにいっぱいいっぱい、チェックするときに反省…の繰り返し (Y)

いまは、ずっと浮かぶようになった。(H)

理念は頭になかった (笑)。今は子どもへの言葉かけも先生同士の話も変わった (B)

はじめは悩んで書いていたのが、だんだん出てくる、覚えているようになった (D)

② それぞれに気づきがある

これをつけたことで、いろいろ気づけた (H)

同じ項目が2点になるなあ、と自分の課題に気づいた (Y)

甘くつけるつもりでも、やっぱり嘘はつけない。(B)

立ち止まって考えてしまう項目が学びに繋がる (Y)

忙しかった時の点数が低いことで、忙しい時こそ理念を大切にしようと思った (Y)

日々の保育の中で保育を深く考えていなかったなと反省。(B)

生き物のお世話とか、料理でも「子どもを真ん中に置いた保育」を考えられると思った。(B)

自分の保育の気づきが増えた。話を聞くときの目の高さとか、話を聞く時間をもったり、一人一人のかかわりとか言葉かけを意識したりするようになった (B)

- ③ 理念が大切なことがわかり、身近になった
1 か月したら、日常保育の中で何かをする前に浮かぶようになった
(B)
園が目指している保育を考えたり、自分の保育を理念から見直す機会
になった (H)
理念が少し近くなった。(Y)
絶対に大事なことだなというのがすごくわかった (D)
- ④ チェック項目がいつも頭にある
保育への思いが広がる (B)
チェック項目に照らすことで、自分の保育が豊かになる (H)
チェック項目を考えることで一番大事な「目指したい子ども像」を意
識できた。(Y)
子どもが遊ぶのを見ながら、理念の項目を思い出している (Y)
自分の保育を理念と照らし合わせるようになった (Y)
昨日と比較してのベースができると、項目を踏まえて保育できるよう
になった。(B)
項目を基礎にして「一人一人が今したいことは何かな?」と考えたり、
「自分の言いたいことが子どもたちに伝わるにはどう言ったらいいか
な?」と考えるようになった (B)
保育の中で立ち止まるようになった。「プロセスで褒める」という項
目に、褒めたいんだけど、この言葉でいいんだろうか?と考えて言葉
が出てこなくなった。(D)
もっといいかわりがあったんじゃないかと考えるときに理念を基に
ちょっと止まる (D)
- ⑤ 理念についての認識
理念ってこういう風に使うんだ。ちゃんとここにいないちゃいけない
と感じた (H)
「これか!」っていう実感が生まれてきた (H)

理念を何のために作ったのか、理念が大事だってことが、やっとわかった（H）

短時間とはいえ、帰るときに一日を振り返る時間があるのとないのとは違う（Y）

外部の方にこの園のことを話すときに、ずっと「子ども主体で」と理念を自信持って言えた（D）

この理念・方針を通してもっと保育を充実してゆきたいと思う（D）

保育士一人一人の中に共通認識として理念があるというのが園の願いだだと自覚した（D）

⑥ 理念が身体に落ちてゆく

だんだんすっとつけられるようになった（Y）

毎日のルーティーンワークになることが大事だと思う（D）

保育をしている中で理念がパッと出てくる（D）

ちょっと雑になったときに、理念を基に見直せる（D）

一人一人の身体に共通の言葉が落ちてゆく（D）

理念にあった保育を自分ができると自分も幸せ。頑張って無理してよい保育をするんじゃないくて、自分が楽しくできたときは点数高いんだから、自分も楽しくやろうと思える。（H）

理念項目が頭にあると、やっぱり点が高い行動を取りたいって思う。

それが少しずつ保育を変えていくんだらうと思う（B）

職員会議で話していても、共通理解ができていて、頷きが多くなった（B）

⑦ 保育が変わった

保育の中で、子どもの要求に今答えられなくても、あとでチェックするときに・・と思うことで子どもへの返事の仕方も工夫するようになった（B）

チェックシートをつけながら一人一人の顔が浮かぶようになって、あの子にこれできたかなと具体的に振り返れるようになった（B）

あまり問題のない子へのかかわりが少なかったことにチェックすること
とで気づいて、明日はそういう子に声をかけようと行動した（B）
子ども主体ということから、その子をもっと知りたいと思うようになっ
て、子どもとよく話すようになった（D）
環境を整えるときも、理念を基に、環境として何ができるだろうと考
えるようになった（D）

※自分一人では高い点にならない項目もあって、やっぱりチームワークだ
なと思った。（Y）
※行事も一つ一つアセスメントシート作ってチェックしたらいいかなと
思った。（B）

5、考察

結果から、このアセスメントシートチェックを毎日することによって、
(1)理念に対する思い
(2)自分自身や保育者仲間に対する思い
(3)保育
に変化があったことが報告されている。

そこで、ヒアリングの結果を本質行動学の視点から ※6)、「理念」「自
分・仲間」「保育」の3点を基準に図式化して考察する。

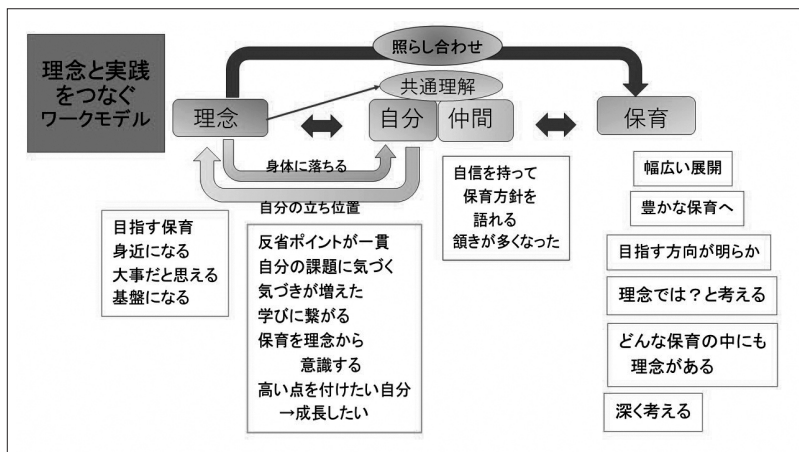


図1 理念と実践をつなぐワークモデル

(1) 理念・方針に対する思い

理念が大切であることは、これまでの保育実践の中でもそうであっただろう。しかしそれを大事にするための実践方法が提示されていなかったのではないだろうか？会社などでは、毎朝唱和するところもあると聞が、園では目の前に子どもがいる状態ではその時間をとることも容易ではない。

「今まで、理念についてあまり考えてこなかったな。」「保育計画を立てるときにちょっと見るくらいで、計画の一つ一つを理念に照らすなんてしなかった」という言葉はすべての園で聞かれた。

今回の「アセスメントシートを退所時に毎日つける」という方法は理念と実践をつなぐ方法の一つであるが、いままで理念を実践に落とし込む方法がなかった中では、画期的といえるものかもしれない。

- ①理念を項目化する中で、評価しやすい具体的な文言にするということが必要となることによって生まれる効果がある。

・これかっていう実感が生まれてきた。・何のために作ったのか、大

事だってことがやっとわかった。・園が目指している保育を考えたり、自分の保育を理念から見直す機会になった。・理念が少し近くなった。

- ②その項目を毎日読んでチェックする中で、その理念が身体に落ちてゆき、共通理解が得られることが報告されている。

・日常保育の中で、何かする前に浮かぶ。・ちょっと雑になったときに、理念を基に見直せる。・自分が楽しくできたときは理念チェックの点数も高いんだから、自分も楽しくやろうと思える。

など

(2) 自分自身・保育仲間に対する思い

このアセスメントシートチェックは、自分のその日の保育を振り返って自分がチェックするものであり、それに対して主任や園長がコメントしたり批判することは決してしないことを約束して開始した。ここでは、自己評価だけで、自分がどこまで気づくかが重要であると思う。

ヒアリングにおいては、理念が自分の身体に落ちて、記憶されるようになるとともに、自分の保育の特徴や課題（いつもいい点数にチェックできる項目といつも低い点になる項目）に気づくことがうかがわれた。

・同じ項目が2点になるなあ、と自分の課題に気づいた。・甘くつけるつもりでも、やっぱり嘘はつけない。・立ち止まって考えてしまう項目が学びに繋がる。・忙しかった時の点数が低いことで、忙しい時こそ理念を大切にしようと思った。・もっといいかわりがあったんじゃないかと考えるときに、理念を基に考えるようになった。・外部の方が来て、この園の特徴を聞かれたときに、理念をしっかりと説明できて、自分でもびっくりした。・保育者同士が話しているときに「今あの項目のことを言っているんだな」と思いながら聞いている。・同じ理念の項目の言葉で話すことが多くなった。

これは、このアセスメントシートチェックが、保育者自らの成長に

寄与していることをうかがわせるものであろう。

(3) 保育実践が変わる！

理念にあった保育ができたかを毎日チェックすることによって、自分の保育を理念に照らして振り返ることになる。そこで、どのように改善すべきかを指導されることはないが、「自分でも高い点をつけたいので、理念にあった保育をするように心がけるようになった」との言葉のように、保育が変わっていったとの報告は多くあった。

- ・毎日同じ項目でチェックすることで、昨日と比較してのベースができると、項目を踏まえて保育できるようになった。
- ・自分の保育を理念と照らし合わせるようになった。
- ・理念にあった保育を自分ができる自分も幸せ。自分が楽しくできたときは点数高いんだから、自分も楽しくやろうと思える。
- ・理念項目が頭にあると、やっぱり点が高い行動を取りたいって思う。それが少しずつ保育を変えていく。
- ・職員会議とかで話していても、共通理解ができていて、頷きが多くなった。
- ・保育の中で今してやれないことはあるが、チェックするときに…と思うことで、子どもへの返事の仕方も工夫するようになった。
- ・今まで、保育がうまくいったかどうかで考えていたが、理念にあった保育ができたかどうかで自分を見るようになった。
- ・理念に「子ども主体」とあることから、その子をもっと知りたいと思うようになって、子どもとよく話すようになった。
- ・チェックするうちに、すべての活動が理念に通じていることが分かり、生き物のお世話とか、料理とかでも「子どもを真ん中に置いた保育」を考えられると思った。

理念を項目化してアセスメントチェックすることで、理念にあった保育へと保育実践が変わることが、様々な表現で語られたように思う。そして項目に合わせた保育を考えることで保育の幅が広がったと報告されている。それが、人に言われてではなく「自分で自分の保育に高い点を付けたい」という自己肯定の欲求から保育が向上してゆくのであるから、その力

はその保育者自身のものと言っていいだろう。

さらに、理念の言葉から、保育者自身が「子どもの話をもっと聞こう」「どんな保育内容でも、そこに子どもを真ん中に据えたかわりがある」などのように、より深く理念を把握して行っている様子もうかがえる。

(4) 残された課題

一方で「子どもの最善の利益」「仏教を基盤にした保育」などの言葉で項目になっている場合には、具体的にどのような保育者のかかわりを評定したらいいのかが明確でなく、アセスメントし難かったという声もあった。

今回は、筆者が各園のHPにあった保育理念・方針から項目を作っているので、その文言をあまり解釈して具体化していない。つまり、その園の理念の文言は、そのままでは保育実践に具体化しにくいということである。

その場合は、今後その園でその文言をどう具体化してアセスメントしやすい項目にするかを話し合うことが有効だと思われる。そして、具体化した項目は1か月～3か月の期間で実践してみて、再び話し合うとよいだろう。

例えば「子どもの最善の利益」などは、具体的にはとてつもなく多くのことを含んでいる。子どもが喧嘩した時、保育者に従わない時、発言しない時・・・どのように対応するのが「子どもの最善の利益」なのかを話し合い、そのうちの一つをとりあげて、「今月はこのことを実践してみよう」と項目化する。それを繰り返すことが、保育実践の質を上げることに繋がると思われる。

6. 結論とこれから

組織の「理念・方針」は、その組織の活動の方向性にとって極めて重要なものであり、組織を立ち上げるときは十分な時間をとって話し合って作成されるものであるにもかかわらず、いったん動き出すとほとんどその文章を見直したり、それを実践しているかを振り返ったりすることなく、日

常の動きが中心となっていくことが多い。

しかし、今回使用したアセスメントシートの項目化とそれを日常的にチェックするという方法を用いることで、職員（会員・社員）の理念への意識も変わり、理念が各自の意識に深く下りたときには、保育が変わるとの報告を得た。それこそ、その理念をもってその組織をスタートした願いに繋がることであろう。すなわち、理念を実践につなげて形骸化させないことは、理念に基づいた実践を考えることができることに繋がり、そのことは実践の質を高めることになるということが、ヒアリングから明らかになった。

以上のことから、リスクマネジメントから改変した評価点を伴ったアセスメントシートが、保育現場に理念を活かし、保育の質を高めるために役立つことが見えたといえよう。

園の理念とは、設立時に作られたあと有効に活用されている園は多くない。それは、その活用法が開発されていなかったことも原因の一つと思われる、また、理念とは「掲げられていればいい」というような認識が一般的であることの弊害でもあるだろう。

物の価値とは、そこにいる当事者がそれにどれほどの関心を持つかによって左右されるという「関心相関性」※5)を持っている。だとすれば、園の理念に関心を向けるような方法が開発されてこそ、理念が価値をもって活かされるのであり、理念の本質が共有されることになるだろう。

現在、研究3で示した「保育者がスマホから入力し、それが自動的に園長のパソコンにおいていくつかの指標においてグラフ化されるアプリ」は、プログラマーの手助けによってすでに開発が完了し、希望する園に提供されている。

今後は、その導入によってさらに園内研修がどのように進み、保育がどのように変化してゆくのかを見てゆきたい。そしてその全体を保育系学会で発表することによって、理念が実践に繋がってゆく園が全国に広がることを願っている。

また、学校現場でも同様であり、さらに小学校以降であれば児童生徒自身にアセスメントシートにチェックしてもらうことが可能である。今、子どもたちが一人一台のICT機器をもつGIGAスクール時代であるから、その学校の理念を子どもたち自身が評価することで所属意識も育まれ、学校を理念に近づけてゆく営みを共にすることが可能になると思われる。

注) なお、本論文中のヒアリングを実施した園については、論文化及び公開の了承をとったうえで論文としていることを記する。

引用・参考文献

- 1) クライシスマネジメントの本質 ～本質行動学による3・11大川小学校事故の研究～ 2021 西條剛央 山川出版社
- 2) ドラッガー・フォー・サバイバル 未来を大きく変えるドラッガーの問い 2021 井坂康志 JMAM
- 3) 保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 解説とポイント 2018 汐見稔幸(監修) 無藤 隆(監修) ミネルヴァ書房
- 4) マネジメント 基本と原則 2001 P.F.ドラッカー著 上田惇生訳 ダイヤモンド社
- 5) 人の力を引き出すコーチング術 2008 原口佳典 平凡社
- 6) 構造構成的組織行動論の構想 一人はなぜ不合理な行動をするのか?— 西條剛央 早稲田大学web研究センター 早稲田国際経営研究 2011 Vol.42 P99-113